

狭山台中央自治会 ふれあい便り

第10号 平成29年11月

地震・雷・火事・親父（台風）

昔から俗に「地震・雷・火事・親父」と言われています。これは世の中で特に怖いとされているものを調子よくいった言葉と言われています。しかし、なぜ親父が災害になぞらえて並んでいるのかと申しますと、昔は家長である父親は家族や子供たちにとって災害と同じように怖い存在であると思われていた。

それにしても不思議な並べ方と、『故事ことわざ辞典』で調べてみると最後の「親父」は、台風を意味する「大山嵐（おおやまじ）」「大風（おおやじ）」から親父に変化したという説もあるようですが、俗説らしい。

近年で考えれば「地震・雷・火事・台風」と並べれば自然災害の怖さをまさに知覚する言葉として言い得て妙です。

自治会の目標と取組み

私たち自治会は、災害からの「安全・安心」を目標に掲げて一昨年の10月に「防災意識の強

い街」を目指して防災プロジェクトを立ち上げて参りました。

プロジェクトとしては、防災意識を言葉だけでなく日頃から「安全・安心」の備えを理解して頂けるようにとの思いから何か形にして視覚に

できるものをと、

地震・雷・火事・親父（台風） —「安全・安心」をめざそう— 狭山台中央自治会防災専門部

「地域特性に合った具体的表現の行動マニュアル」作成に取組み、本年5月に「防災ガイド」が完成、会員の皆様に配布出来ました。又、本年度総会には「自主防災組織の運用規約

（案）」を提示、こ

こに会員の助け合

い精神に基づく防

災活動実施の諒承を頂きました。

日頃の心構えと

訓練の大切さ

「自主防災組織の運用規約

（案）」により、具体的な活動に

取組みをはじめました。日頃の

心構えの勉強会及び災害の疑似体験会を通しての防災の関心を深めることを主眼に、多くの会員相互が知識を高めて頂き、自治会自主防災組織として「安全・安心」が少しでも実感できる地域になるよう活動を進めて参りますので協力願います。

自助・共助・公助

被災時には自助・共助・公助が挙げられますが、一番大切なことは「自分の身は自分で守る」ことです。そのためには日頃からの準備が肝要です。「いざ」の時の心構えを会得、行動が出来るようにしておくことです。

自分の身の安全を得てはじめて、共助への助け合いが出来ることとなります。

公助は被災による人命救助が最優先であり、多くの救護、支援活動は最後になります。

それだけに「自助」の大切さをしっかりと身に付けることです。「地震・雷・火事・台風」に日頃の心構えを忘れずに！と期待してやみません。

災害疑似体験会に参加して

《1》

浅地 信浩

(15 ブロック)

私の人生初めての地震体験は、昭和24年の福井の大地震です。金沢市の片田舎で暮らしていた子供のころで、夕方、「ゴーゴー」と地鳴りがして地面が大きく横に揺れ家畜の牛も座り込んだ様子が忘れられません。気象庁はこの地震で震度7〈激震〉を設定したことです。火山噴火の貴重な体験もしました。昭和61年伊豆大島三原山の五百六五年ぶりの割れ目噴火です。島民一万人が約一ヶ月島外避難しました。中央火口から流れる溶岩流、五〇〇メートルを超える割れ目噴火の火柱、新火口（13個）が次々町の方へ降りてくる様子、火山による群発地震の縦揺れが

続き、自然の営みの大きさに畏怖の念を感じました。



防災に関する勉強会
狭山台公民館にて

近年の地震、風水害、火災、火山の噴火などの災害が大規模で激しさを増しています、雨が局地的に1時間あたり一〇〇ミリに及ぶ集中豪雨による災害が頻発しており、天気予報の内容をこまめに把握しておく必要があるように思います。この度、自治会の防災専門部で発行された

「防災ガイド」の内容は極めて詳細で実践的にまとめられているので、可能なことから備えをしていかなければと考えています。

過日、開催された自治会主催の勉強会では市役所職員の方から狭山市で想定される地震の最大震度は「6弱」、災害時の情報ツール、家庭でできる防災対策、備蓄品、簡易トイレの備え、災害時伝言ダイヤル「171」などについての講習がありました。体験会は狭山市消防署であり、地震体験では関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災のそれぞれ揺れ方を電子掲示板に表示される震度を見ながら体験しました。地震の揺れを自分自身の体で体得しておくことは防災の第一歩だと思います。また、火事の際の煙体験、暗室煙体験をしました。煙の広がっていく様子を確認でき命を守る良い体験でした。ハンカチを常時携帯していることも大切な防災になります。

被害が起きることは人知を

超えることですが、最小限で済むようにと思うばかりです。

※ ※ ※

《2》

綾部 恵子

(2 ブロック)

私たちは国内、国外を含めて数多くの災害（目を疑う映像、不気味な轟音、耳に残る避難スピーカー等）をテレビを通じて体感します。そのような時に何が出来ると不安になります。漠然とではなく行動計画を纏めておくことが必要だと思います。講習会に参加するようになり、今回の消防署の地震体験もその一つです。

自治会の25名弱の皆様と2時間余り、災害に関する事項、重要点、今回の目的である地震の揺れを体験する必要性など、消防署の署長さんや隊員の皆様から、ユーモアたっぷり、笑いもあり、熱弁で数多くの事柄を御説明頂きました。楽しく

聞くのみでメモをとる事も忘れ
時を過ごしてしまいました。

そして班に分かれコーナ
別に進行。最初は災害時の電話
のかけ方の体験でした。あわて
てかける電話、かける側の情報
と思っておりましたが、もっと
重要なことは先方（消防署員の
方々）の質問に正確に詳しく答
える事なのだと理解しました。

次に、火災の際の煙の広がる
様子です。実際には煙の出る小
部屋があり、煙が広がっていく
様子が観察できます。説明では
煙は直ぐには広がらず姿勢を低
くして鼻や口をタオルで覆い壁
伝いに出口へと向かう事でした
続いて暗闇の部屋に入り手さぐ
りで前進します。何も見えず、
真っ暗で三部屋くらい続いてい
たと思います。いつまでもいつ
までも出口が見つけられない不
安を感じました。外から見ると
ほんのちよつとの距離です。

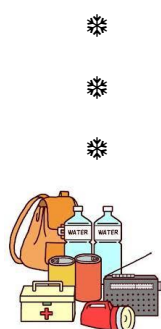
最後は地震体験です。東日本
大震災、阪神淡路大震災、関東
大震災、震度を6と7と段階的
に変化させ、揺れの恐怖を実感

します。言葉での表現は難しい
ですが、小刻みに全てのものが
軋む音になり、動かないと思わ
れる家具も動き出す、又、大き
く揺れるが余り不安を強調しな
い震度7もある。壊れ落ちてく
るものが恐怖なのである。



狹山市消防署の災害疑似体験室
震度「7」の揺れを体験中

常に言われますように生活の
場は壊れる物のない空間を日常
とし、いつも災害への備えを忘
れずに生活する、それが出来る
か出来ないかがこれからの問題
です。



地域福祉についてのアンケート集計結果

狹山台中央自治会福祉部

§ 地域福祉アンケート結果第一報 § （平成29年9月実施）

○ 回収数 183名 <自治会員 139名、非会員 22名、不明 22名>

- 見守りについて 1) 希望する 70名(42%)、2) 希望しない 98名(58%)
- 緊急時の支援 1) 希望する 113名(68%)、2) 希望しない 52名(32%)
- 福祉講座について 1) 認知症予防 34名、2) 腰痛・股関節講座 32名、3) 自立体力測定 18名
4) 高齢者食事 18名、5) 誤嚥予防 11名、6) ノルディック 10名
- 情報・文化福祉講座等の希望 1) 介護保険 34名、2) 在宅医療・介護 32名、3) 傾聴講座 9名
- 介護保険制度について
要支援1. 2. が地方自治体に移管されたこと 1) 知っている 46名、2) 知らない 118名
要支援1. 2. の緩和型支援について 1) 知っている 23名、2) 知らない 68名
- 地域福祉活動への参加について 1) 参加している 54名、2) 参加してない 115名、
- 会話量について 1日の会話量は 1) 少ない 40名、2) 普通 109名、3) 多い 31名、

<総評> 今は見守りが必要ないが、今後は必要と考えている人が見受けられます。この観点から
今後、見守り（異変を感じるご近所）の仕組みを考える必要があろうかと考えます。
ご協力ありがとうございました。

（＊各項目の記入が無いものがありますので合計は合いません。）

第14回狭山台ふるさと祭り (2017.7.22)



まだ1等賞が残っている！



千客万来、今年も盛況でした。

* 年々、狭山台ふるさと祭りは賑やかになってきています。これも若い世帯の居住とお子さんたちが増えたせいと思われます。
狭山台からこうした文化の発信が定着しつつあり素晴らしいことです。
祭りに来場された自治会員総数はおよそ200余名。

地域活動風景



第33回狭山台地区体育祭 (2017.10.1)



* PKサッカーが一番人気の競技だけに661名の参加者がありました。まさに老若男女全員参加の楽しい風景が繰り広げられました。
体育祭参加会員数は149名。



私だって エーイ！

絶対 ゴールするぞ！

* 参加して初めて楽しさがわかる地域の交流活動です。さあ、この指止—まれ！

**サロン なごみ
一緒に作って食べよう昼ごはん**



今日の献立は「親子丼」で一す。

**ハワイアン&フラ
納涼のタベ**



フラがこんなに綺麗で楽しいとは！

**市内史跡と文化財巡り
柏原地区散策の一韻**



狭山の歴史が素晴らしい！

祝 敬老会

平成29年9月24日



新敬老会員を代表して
戸坂さんに花束贈呈



新敬老会員を代表
して片岡さんに記念
品贈呈



**今年も出席の方々のとびっきりの笑顔です。
年々歳々、年を重ね、元気を重ね、来年も笑顔で再会を！**



「たすけあい」

人の輪と和を紡ぐ

代表 乾谷正史

たすけあいは11月で丸5年

1 改めて「たすけあい」とは

高齢化で夫婦や単身の世帯が増えていく中「ちよつと手や知恵を借りたらできそう...業者に頼むほどではないし」という時に依頼を受け、近隣の利点を生かし駆けつけ手助けをして解決を図る。文字通り『たすけあい』ということなのです。

そして、『たすけ合う』ことを仲立ちとして人の輪が自然に広がり、更には人の和が育まれ、住みよい地域にしていこうという活動です。



2 相談室として出発した

『サロン なごみ』

困り事の相談はもちろんのこと、コーヒー片手に時々の世相を反映した話題で盛り上がった

り、時にはテーマを決めて皆で深め合ったりします。

一緒に昼ご飯を作って食べる至福の時もあり、ちよつぴりの非日常を共有することで、互いがゆるやかにつながり「たすけあい」への糸口ともなります。相談のあるなしに関わらず「ふらり来訪！」歓迎です。

3 10月の全体会

『サロン なごみ』を含む「たすけあい」を通して知り合った人が一同に集い会食をする会です。より利用しやすく、より参加しやすい活動を目指して意見を出し合います。

今年は10月16日に開催しました。

◆ 例えば

こんな時、気軽に利用を！

- ◇ 部屋の模様替えをしたら配線が分からなくなった
- ◇ 手が届かない照明器具の掃除や電球取替えがしたい
- ◇ 網戸の張替えで手が欲しい
- ◇ 伸びた庭木の高さを揃えたい

が届かない

◇ 手入れが大変なので、1本伐採して少なくしたい（太くなければ可能・要相談） など

【まずは左記へ臆せず相談を】

◆ 乾谷 (050-1244-7983) か

◆ 『サロン なごみ』で

足利学校・鑊阿寺への旅

男子会・女子会共催

九月六日実施



薄曇りの朝、降雨を心配しながらのバス旅行と思いきや皆さんの日頃の善行に報われ、しのぎやすい初秋の一日、総数40名修学の旅となる。途中、AGF

関東工場の見学会では、レギュラーコーヒーやインスタントコーヒーの加工過程と美味しいコーヒーの淹れ方などを学ぶ。

昼食は足利B級グルメなる「ソースひれかつ丼」を賞味。午後は旅の目的である日本



足利学校入学証を授与され「学校門」前での入学記念の集合写真（楽しい一年生）

最古の学校「足利学校」へ。地元「観光ボランティア協会」会長によるユーモアあふれる案内で史蹟を巡る。創建については奈良、平安、鎌倉時代と諸説あり。歴史が明らかにするのは室町時代、上杉憲実が書籍（現国法）を寄進し、学長制度を設けるなどして学校を再興した。構内には往時を彷彿させる施設が残っており歴史の重厚さを感じさせられた史蹟でした。

学校に隣接する「鑊阿寺」は、鎌倉時代足利義兼公により創設された真言宗の古刹。ここ足利には大勢の方が訪れている故に残る詳細は省略します。

帰途は佐野厄除け大師に参詣。楽しく充実した終日でした。

「せんだあさろん」

私の趣味

私の生きがい

私のふるさと

倒れて三年：

過ぎゆく夏の思い出

佐藤 洋子

(4 ブロック)

三年四か月前に脳出血により障害者1級、介護度5となった夫は八か月の病院生活から在宅へ。そして一年前、五年ぶりに戸建てに戻ってきた。旅行好きの夫は倒れても旅行好き。五〇年間連れて行ってもらった一方だった私。私の運転する車には乗ったことがなかった夫であった。思わず生活全般はもとより、旅の手配すべてを行うことになった。

夫が倒れた後、自律神経がお

かしくなり「めまい・耳鳴り」に見舞われ、また介護技術が心もとない私を心配した子どもたちが三年間旅行の度に送迎をしてくれた。今年の冬に年上友人夫婦に誘ってもらったの沖縄旅行が楽しく、「このままではいけない！」と発奮させられた。春からは二人でバス、電車、新幹線で出掛けられるようになり、ルンルン！高齢の兄宅や福島への同級会や冠婚葬祭にも訪れることができるようになった。

この夏は縁あって、北九州市より小学二年生の女兒が三週間ホームステイにやってきた。女兒の幼馴染等も加わり、毎日がクッキング教室・ぬいもの教室など賑やかな生活を送った。

「じいじにチュウしたらびっくりなおる？」と聞いていた（奇跡は起こらなかった！？）女兒を送る旅は、初めて私が羽田空港まで車で運転、飛行機で北九州市へ。人に会う旅、おいしいものを食す旅、行く先々で手を貸してもらいながらの旅だった。

また夢中で暮らした八月、

「めまい」が（耳鳴りは一年半で消える。めまいは三年目）無くなっていた。嬉しく、楽しかったこの夏の有り難い出来事であった。夫の介護生活を第一番にして、時々小さな友だちとの交流を持ち、「よく寝て、笑いを忘れず」積み重ねることが改善につながっているようである。

「石の上にも三年・・・！」なんだあ…。

「生かされている夫、生きるも死ぬも私次第。命、預かっています。」の心意気を失わず繰り返す日々を慈しみながら、時々手を借りて、来年の夏の小さき心の友との再開を、もう夢見ている。



短歌

子供たちがこんななにかと夏祭り
ちようちん灯りて踊り輪となる
ふる里の街のまつりの神輿にて
道一杯に人の練り行く

富岡ヨシ子

(20 ブロック)

枝整えその枝生ける母にきく
実をつけ初むる千両と知る

図書館にて歌集手に取るその中に
四十五人の生きざまを知る

大島元子

(15 ブロック)

俳句

金木犀のこぼるるままに立ち話
木枯のやみて秩父嶺近くなる
文化の日ハートを描く戦闘機
遊ぶ子のひとりづつ抜け日短

秋津 結

(8 ブロック)

今年度の実施行事

【自治会】

- *本年度総会(4月16日)
- *狭山台ふるさと祭り(7月22日)
- *狭山市防災訓練(8月26日)
- *当自治会敬老会(9月24日)
- *狭山台地区体育祭(10月1日)
- *ふれあい音楽祭(11月12日)
- *年末大掃除(12月10日予定)



「たすけあい」行事

- *たすけあいは年中無休
利用は常時受け付け
- *「サロンなごみ」は毎月2回開催
時々小規模なイベントあり。

【男子会(三火会)】

- *春季ゴルフ大会(5月11日)
- *柏原地区歴史散策(5月22日)
- *ハワイアン&フラのタベ(8月26日)
- *秋季ゴルフ大会(10月25日)

【男子会・女子会共催】

- *史蹟足利学校・鏝阿寺&AGF工場
見学バスツアー(9月6日)

— 会員動態 —

◇ 会員の入会・退会

《入会》

- | | |
|-----------|----------|
| 8月 1 BL | 板橋 潤 様 |
| " 18 BL | 横澤田 健一 様 |
| 9月 17 BL | 鮫島 寛通 様 |
| 11月 13 BL | 松本 拓也 様 |

《退会》

- | | |
|----------|---------|
| 6月 21 BL | 富沢 英文 様 |
| 8月 17 BL | 小林 勉 様 |



◆ 物故会員(含むご家族)

謹んでご冥福を心より
お祈り申し上げます

- | | |
|----|---------------------|
| 7月 | 3 BL 森田 辰雄 様(享年96歳) |
| 9月 | 3 BL 高橋 芳雄 様(享年85歳) |



編集スタッフから

●近所の枯葉が我が家に怒濤の如く押し寄せる季節がやって来た。毎年の光景で、憂鬱な気分になる。ところが、今ではこの憎き枯葉が全く気にならない。何故なら、これを集めて堆肥を作り、野菜栽培に活用しているからである。むしろ、今では「歓迎！落葉くん」といったところです。猫の糞に悩む昨今だが、猫を自分で飼ってみたらどう気持ちが変わるだろうか。(大野)

●二つの台風後、気づいたら桜、銀杏、樺の木々が色づき始め、小さな庭の小菊の花々とのコントラストが楽しみな季節になりました。自治会活動も大きな行事がほぼ終わり、ホッとしています。思いがけずの代議員。不安ながら「やれることだけでいいんだよ！」の励ましでここまで来ました。感謝です！(佐藤)

●今年43年間の会社勤めを終えて、俗にいう第二の人生スタート時、諸先輩から「教養」と「教育」を何よりも大事にとの言葉を頂いた。「えー！もう遅いわ！」と。一転「今日の用事」(教養)と「今日行く所」(教育)の意味とのこと。それならば、これを機に教養と教育を確保しつつ、地域社会との繋がりを少しずつ築いて行きたいと思っています。(奥)

【編集後記】

当自治会はここ二年余に亘り「防災」をテーマに取り組んで参りました。特に「防災の心構え」の大切さは当「ふれあい便り」で取り上げて来ました。私事の恥を申せば心構えの大事を理解するも、準備は万全かと問われればまだです。近頃的大型台風や局地的大雨災害をみて反省することしきりです。

古来、日本には農業と結びついた気象に関する暦(旧暦)があります。十月下旬からは寒露、霜降、立冬、小雪などと巡り来ますが、近年は暦と季節の移ろいが乖離していて寂しい限りです。

残りも一ヶ月有余。来年の干支は「戌」。戌は自立心が旺盛で、協調性と柔軟性を併せ持つているため困難も決してめげずにやり遂げる力を持っていると言われています。(編集子)

狭山台中央自治会

「ふれあい便り」第10号

発行 平成29年11月15日
発行責任者 山葉 裕
編集責任者 佐々木 久
編集スタッフ 大野 昭雄
奥 康男 佐藤 洋子